

「NICU に入院した新生児のための母乳育児支援セミナー」開催報告

横尾京子 (委員長)¹⁾, 栗野雅代²⁾, 岡永真由美²⁾, 宇藤裕子¹⁾,
木下千鶴¹⁾, 長内佐斗子¹⁾, 村木ゆかり¹⁾, 高田昌代²⁾

はじめに

NICU 入院児の母乳育児支援委員会は、平成 18 年度より活動を開始し、2 年間の活動結果を日本新生児看護学会誌 14 巻 1 号で発表した。1 つは、平成 18 年 8 月に実施した調査に基づいた「NICU における母乳育児指導に関する実情と課題」であり、もう 1 つは、「NICU に入院した新生児のための母乳育児ガイドライン」の推奨の要点である。ガイドライン解説編は案の段階まで作成した。

平成 20 年度は、解説編の内容の洗練、及びガイドラインの普及のために、NICU に入院した新生児のための母乳育児支援セミナーを開催した。本稿では、平成 20 年度委員会活動中間報告として、本セミナーの実施結果を報告する。

セミナー実施状況と内容

セミナー開催案内は学会 HP 上で公開し、新生児集中ケア認定看護師や NICU に勤務する看護職に呼びかけ、平成 20 年 9 月 13 日 (土)、14 日 (日) の 2 日間、広島大学大学院保健学研究科棟で実施した。定員 40 名のところ 68 名の応募があり、教室等を増やし、全員を受けることとした。

参加者は、NICU 看護師 38.8%、新生児集中ケア認定看護師 22.4%、新生児集中ケア認定看護師教育課程研修生 20.9%、助産師 17.9%であった。

参加者のうち、母乳育児に関する研修会やセミナー等の参加経験があったのは 52.2%、本ガイドラインについて知っていたのは 56.7%であった。

第 1 日はプレテスト 10 分間と講義 7 時間、第 2 日は講義 3 時間 40 分、演習 1 時間 30 分、ポストテスト 15 分とした(表 1)。講義はガイドライン項目に対して行い、演習 (90 分) は用手搾乳法、直母の方法、電動搾乳器 (シンフォニー) の使用方法とした。講師は、本委員会メンバーである栗野 (IBCLC: 国際認定ラクテーション・コン

表 1 セミナー時間数

第 1 日 10:00 ~ 18:00		第 2 日 9:00 ~ 16:30	
プレテスト	10 分	講義	3 時間 40 分
講義	7 時間	演習	1 時間 30 分
		ポストテスト	15 分

サルタント)、横尾、宇藤、木下、長内、岡永、そして、神奈川県立こども医療センター新生児科医で IBCLC の大山牧子先生、メデラ社の小野千春先生、電動搾乳器に関する研究に携わる広島大学助教の藤本紗央里先生とした。

受講後のアンケート調査によると、表 2 に示したように、講義を通して初めて知った内容があったとの回答が 90% 台は 5 講義、80% 台は 2 講義、50% 台は 1 講義であった。具体的な内容は表 3 に示したように、NICU に入院した新生児の母乳育児に関する知識の他、母乳育児支援に必要な基本的な知識 (ガイドライン項目 4)、母乳育児を支援するための考え方 (ガイドライン項目 1・2・8・9・10) においても初めて知った内容が多く認められた。参加者の半数が母乳育児に関する研修会やセミナー等の参加経験者であったが、セミナーでの講義内容は、参加者にとって知識向上に役立つものであり、臨床活用上で重要と認識されたものと考えられる。

全講義及び演習が終了した後、67 名がポストテストを受けた (1 名は第 1 日のみ参加)。テストは 15 満点で、平均 12.7 点、最小 10 点、最大 15 点であり、67 名全員にセミナー修了証を発行した。

委員会としての今後活動

参加者の 89.6% は、本ガイドラインを使用したいと回答した。その内の 55.0% は、使用上の課題があると認識していた。その課題とは、「NICU 看護スタッフや医師の理解が必要」「産科の助産師や医師の理解と連携が必要」「医学会と連携してガイドラインを普及する」「スタッフの知識や技術の向上」「DVD などの教材の作成や開発」

・ Seminar on breast feeding for infants admitted to NICU

・ 所属: 1) NICU 入院児の母乳育児支援委員会・日本新生児看護学会
・ 日本新生児看護学会誌 Vol.14, No.2: 30 ~ 31, 2008

2) NICU 入院児の母乳育児支援委員会・日本助産学会

表2. 講義を通して初めて知った内容の有無

時間	講義	あり
60分	ガイドライン作成の経緯と概要, 項目1・2・8・9・10の解説	92.5%
120分	項目4: 直母の方法に関する基礎知識	91.0
90分	項目3: 母乳の特性と母乳育児の意義	91.0
90分	項目7: 新生児の状態に合わせた支援 (心疾患 消化器疾患 口唇口蓋裂)	92.5
60分	項目5: 搾乳の必要性と方法	82.1
60分	項目6: 直母を成功に導く方法	83.6
70分	項目7: 新生児の状態に合わせた支援 (低出生体重 慢性肺疾患 外科疾患)	50.7
30分	電動搾乳器 (シンフォニー) の原理と使用法	91.0

(n = 67)

表3. 講義を通して初めて知った具体的内容

講義	初めて知った具体的内容	人数
ガイドライン作成の経緯と概要 項目1・2・8・9・10の解説	1) ガイドライン作成の経緯と概要 ・ガイドライン作成の目的と必要性	23 (13)
	2) 項目1・2・8・9・10の解説 ・早期に乳頭刺激が必要であること ・母親の自己決定を支えることの重要性 ・精神的サポートの必要性	59 (21) (17) (14)
項目4: 直母の方法に関する基礎知識	1) 母乳分泌の生理機序 ・オートクリンコントロール	25 (10)
	2) 授乳のアセスメントと指導 ・ハンズオフテクニック ・ポジショニング・ラッチオン	58 (30) (18)
項目3: 母乳の特性と母乳育児の意義	1) 母乳の特性 ・エビデンスに基づいた母乳の特性	32 (26)
	2) 後乳について ・後乳の効果的な利用法	26 (18)
項目7: 新生児の状態に合わせた支援 (心疾患 消化器疾患 口唇口蓋裂)	1) 哺乳の要素と条件の関連	21
	2) 新生児の状態に合わせた支援法 ・口蓋裂を持つ子どもへの具体的な支援 ・心疾患や口唇口蓋裂があっても直母可能	55 (21) (14)
項目5: 搾乳の必要性と方法	1) 搾乳の必要性と理論から見た搾乳法 ・クリマトクリットについて	25 (10)
	2) 電動搾乳器について ・電動搾乳器の有効性	22 (15)
	3) 用手搾乳法	9
	4) 搾母乳の質と保存法	5
項目6: 直母を成功に導く方法	1) 直母に変わる授乳法 ・カップフィーディングのエビデンス	29 (21)
	2) No-bottle protocol	22
項目7: 新生児の状態に合わせた支援 (低出生体重 慢性肺疾患 外科疾患)	1) 低出生体重	3
	2) 慢性肺疾患	9
	3) 外科疾患	3
電動搾乳器 (シンフォニー) の原理と 使用法	1) 原理・特徴・適切な使用法 ・パーソナルフィットにサイズがあること	47 (12)
	2) 消毒法	14
	3) コスト	3

(n = 67, 複数回答)

等であった。

これらの課題を考慮し、平成20年10月12日開催の委員会において次の5点について検討の予定である: 1) 本セミナー実施後3か月のフォローを行う (協力者43名), 2) 解説編の完成, 3) セミナーの定期開催 (産科助産師の参加を促す), 4) 上級コース (本セミナーを基礎編と位置づけ、基礎編修了者を対象としたコース)

の検討, 5) 医学会との共同によるガイドラインの普及とスタッフの質向上。

さらに、本セミナーをIBCLC受験や更新のための多に取得承認セミナーとしていくこと、また、セミナーやガイドラインに関するHP上での公表内容や方法についても工夫を重ね、ガイドラインが多職種に理解され、活用されるようにしたい。